

ポケットマスター臨床検査知識の整理 臨床医学総論／臨床検査医学総論 臨床検査技師国家試験出題基準対応 電子版付

編集：新臨床検査技師教育研究会

著者：小山 高敏(東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科 准教授)

高木 康(昭和大学 副学長)

判型：新書判変、322頁 / 2色、定価(2,800円+税)

出版社：医歯薬出版

本書は臨床医学総論/臨床検査医学総論のポケット版で、最新臨床検査学講座の臨床医学総論/臨床検査医学総論をコンパクトに纏めたものである。

医学総論や臨床検査医学総論は疾患と検査を結びつける重要な科目であるが、量が膨大ですべてを詳細に網羅することは不可能である。しかしながら本書は膨大な情報量を少ない言葉で適格にコンパクトに纏めてあり、知識を整理するには適している。ただし、コンパクトに纏めてあるがゆえにやや理解しにくいところもある。そのような時は最新 臨床検査学講座の臨床医学総論/臨床検査医学総論の同じ章の部分および検査部分を開ければ詳細に記述してあるので、その部分を復習すれば理解に役立つ。

著者の小山高敏先生は本書について「各疾患の病態について、病因(原因)、臨床像、診断法、治療の概略を体系的に学び、疾患と臨床検査との関わりについて理解し、臨床医学を支える能力を養う学問」と位置づけ執筆されている。臨床検査技師は正確な検査結果を迅速に臨床へ提供することは言うまでもないが、単にデータを出すだけではなく、そのデータが臨床像も把握した適切な検査結果であるかを解釈する能力が必要である。そのような意味からも医学総論や臨床検査医学総論は重要である。

本書の構成は各パートの入り口で、国家試験出題基準に収録されているキーワードを「学習の目標」に掲載してある。この目標は、このパートでは最低、このことを理解し覚えなければいけないことが一目でわかるようになっている。また、病態の部分ではどの疾患でもまず疾患名をあげ、その疾患の概略と

原因、症状、診断、治療の順に説明が統一されているので見やすくわかりやすい構成である。そのチャートの最後にはセルフチェック A として、○× 式問題が掲載され、理解度を確認できるようになっている。さらにチェック B として国家試験問題と同じ出題形式の A 問題、五肢択一式、X2 問題、五肢二式の問題が掲載されている。

また、従来からこのような書籍には記憶の定着に活用できるようにと赤色シートで重要事項や語句のキーワードが消えるような仕組みがある。本書でも同様な仕組みはあるが、しかしながら、ここがポイントであるが、本書の最大の特徴的として、付録にスマートフォンで利用できる電子版がついたことである。電子版の使い方(マスク機能・解答機能について)の説明のように赤色シートは使用しなくてもタップするだけで文字が表示されたり消えたりする仕組みである。スマートフォンならではの。同じようにセルフチェックもタップすることで正解や誤りが表示される仕組みで何回でも使用可能である。

残念なのは、○× 問題の順番や国家試験問題形式では選択肢のシャッフルができると新鮮な問題として再チャレンジでき、理解力や記憶力の検定に何度でも利用できるのでは是非改良をお願いしたい。

いずれにしても電車の中でも気軽にしかもゲーム感覚で学習できるのは興味深い。本書は便利な学習ツールになると思われ、多くの国家試験を目指す学生さんに利用していただきたい。

(東 克巳：前 杏林大学保健部
katsumi-higashi@ks.kyorin-u.ac.jp)